

約7,000年前・約200年前

中園遺跡

(縄文時代早期後葉・近世)



発掘調査の様子



発掘調査の様子

県道改築事業に伴い、平成二十三年・二十四年に西之表市教育委員会が発掘調査を行いました。

調査の結果、縄文時代早期後葉（約7000年前）の土器・石器類が約一〇〇〇点、石蒸し焼きの調理施設と考えられている「集石」が発見されました。

土器は、貝殻で文様をつけたものが大部分を占めます。石器は、磨石・敲石・台石・石皿が数多く発見され、主に植物性食物に依存していたことが伺われます。

中園遺跡からは、近くの川や海岸から運び込まれたと思われる石が、多数発見されています。石には人が使用した痕跡がみられないため、当時の人々が、使用する目的で遺跡内に石を運びこんだものの、なんらかの理由で、当地に廃棄されたものと考えられます。

また、柱穴（はしらあな・ちゅうけつ）が七十五基発見されています。柱穴の中には大きな石が数個入っているものもありました。柱穴の中から発見された陶磁器から、この柱穴の時代は近世頃（江戸時代）と思われます。柱穴は数基が規則的に一列に並ぶものもあり、建物があったことが考えられます。

種子島において、近世の柱穴が多数発見されたのは初めてのことであり、今後の調査研究が注目されています。



発見された柱穴（はしらあな・ちゅうけつ）

